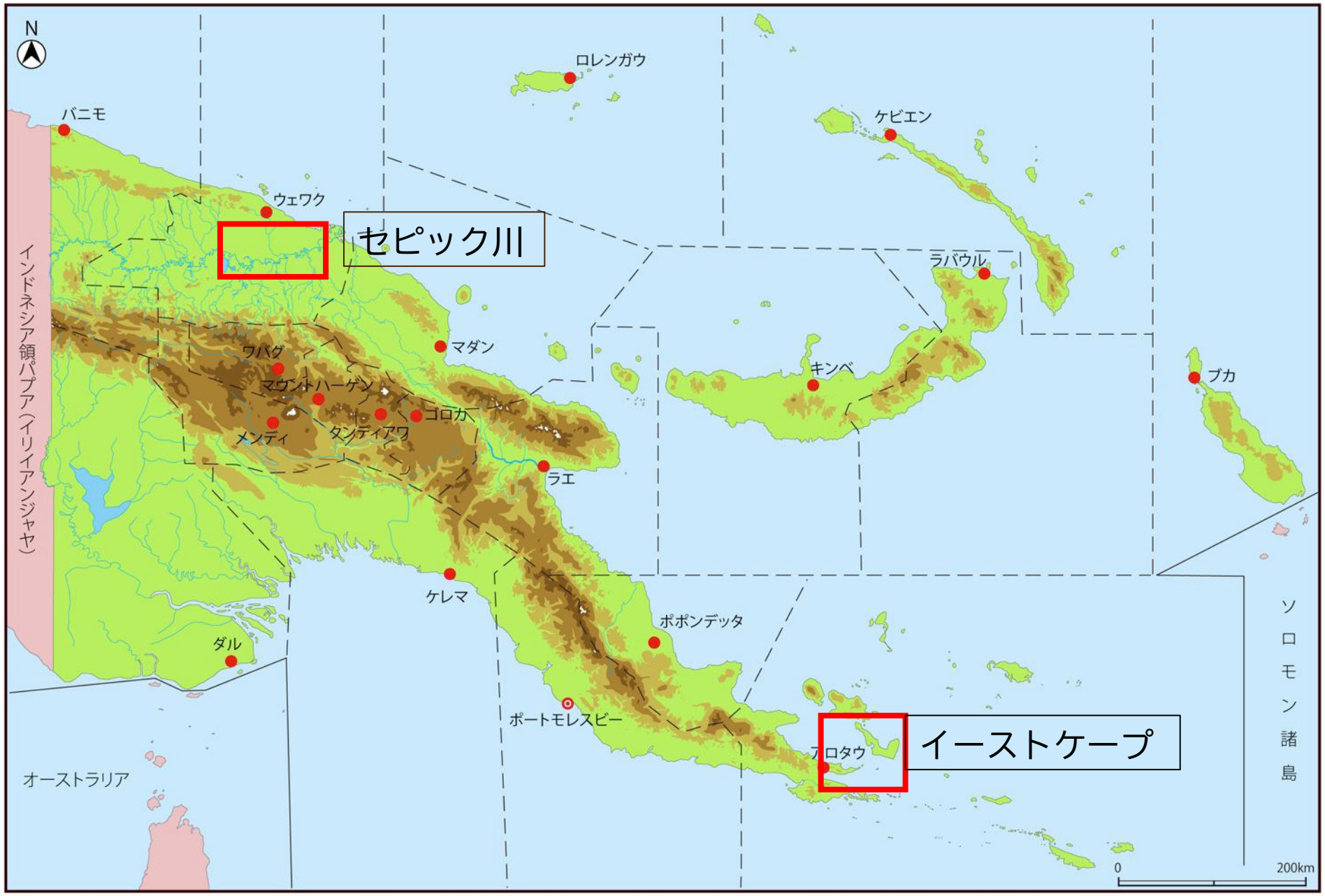
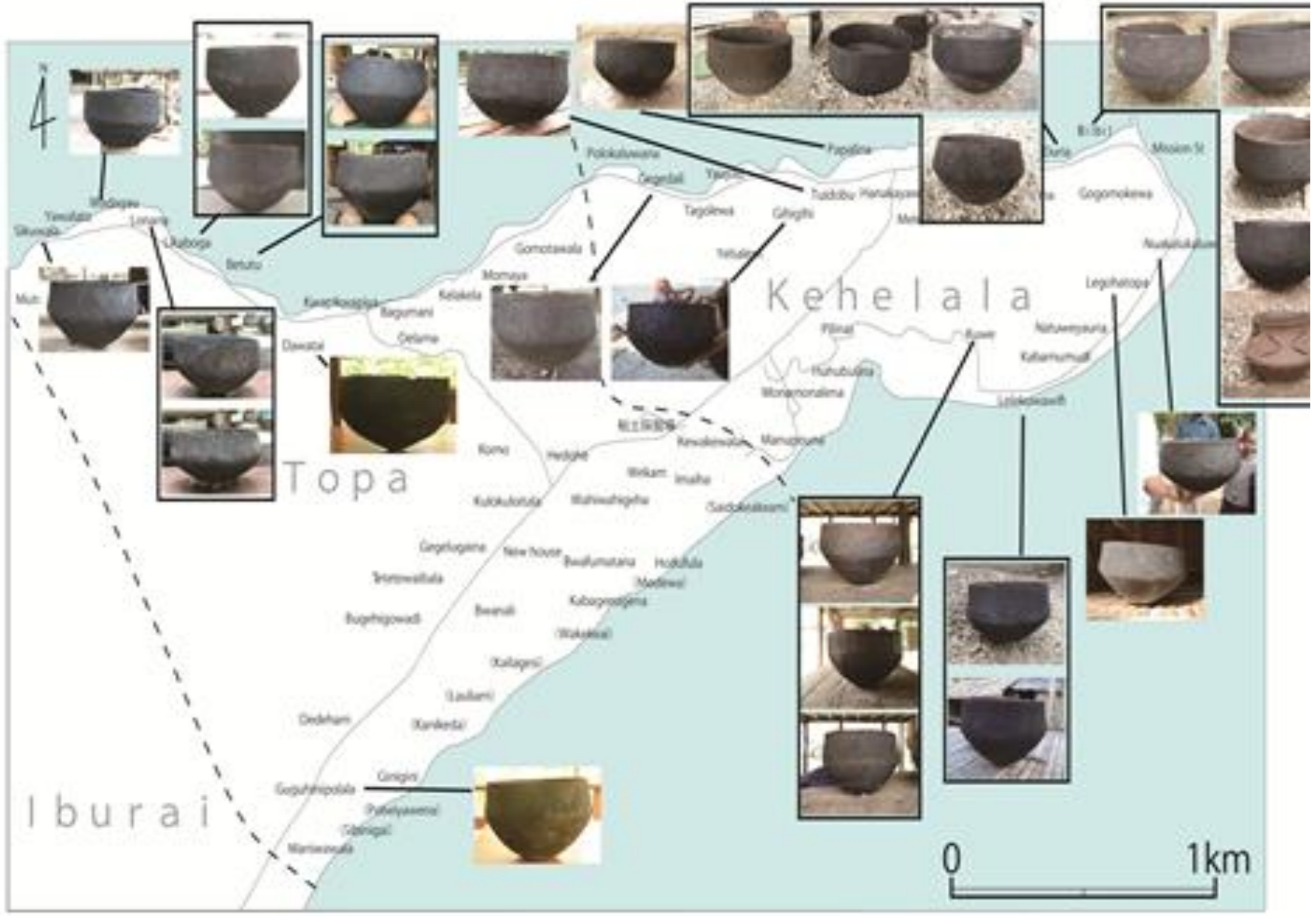
土器製作者の心性をPNG民族誌から探る





イーストケープのクランと土器製作地

PNGの土器製作者





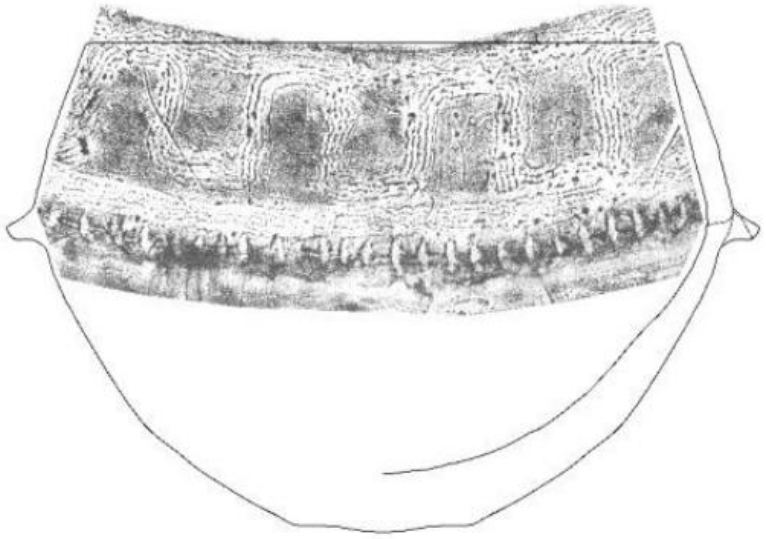




D女史の作品









土器型式が成立する社会背景：PNGイーストケープの民族誌調査

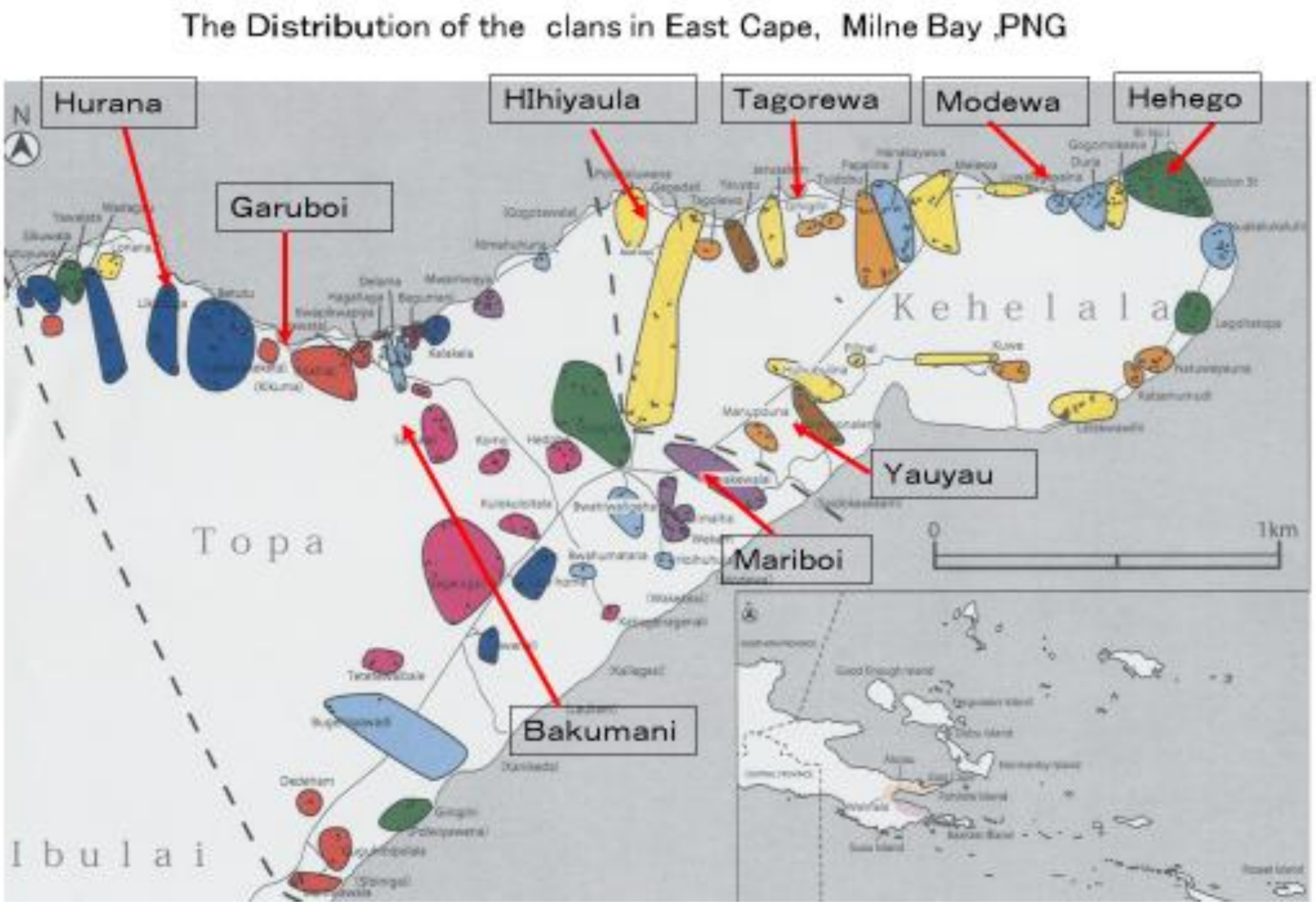
- 土器型式が成立する社会的背景は何か
- 基本は母から娘へ伝承（母系制社会）

⇒それでは土器は家系ごとの独自性をもつ

◎クラン、婚姻システム、婚後居住システムの影響大（家系、婚姻）

◎製作の基本的伝習、模倣・融合が行われる機会（トレハ）

イーストケープの村々とクラン配置



もう一つの課題：土器型式はなぜ変わる？

A.クローバーの学説

『様式と文明』（堤・山本訳1983）

部族民における社会的流行（はやり・すたれ）は、傑出した個人的な動向よりも、社会的で集団的な動向によって説明できる。

・縄文土器の型式分布も個人的というよりも集団的な関係により説明が可能

だから型式の変化にも個人が関与するとは考えない

D女史との遭遇

- 10年近く前に、「土器は私が変る」と豪語する一人の女性（D女史）に遭遇

- D女史は地域一の土器作りの名人

皆から尊敬され、土器作りを教える

一種の権威

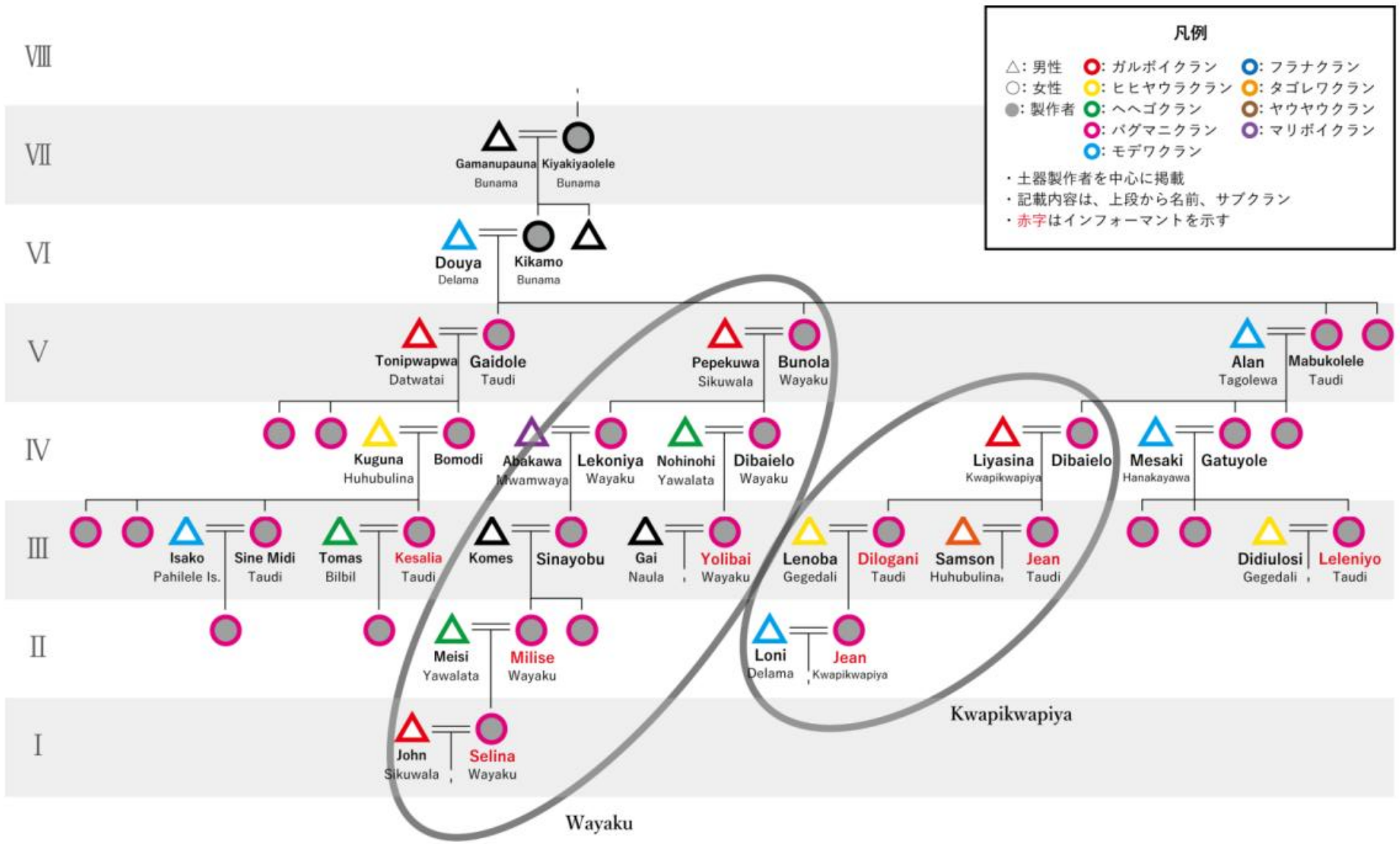
D女史の権威の源泉

- 技術的優越性：村一番の技術者
- 確かに彼女が土器を変えたら、多くの人達が追随する可能性が大きい

- しかし、D女史に匹敵する技量の持ち主は他にも多数いる
- なぜ諾々とD女史に従うのか

リーダーシップ

D女史とバクマニクランの系譜



課題の再設定

- 彼女が豪語できる理由は何か
- 優秀な技術以外に何かありそう

→ 土器製作者の精神世界の解明が必要

女性土器製作者たちの聴き取り調査

○土器の使用

１．日常の煮炊き

２．死者の頭を覆う容器、遺体の処理など様々な行為（1970年代に衰退）

30、40年前まで、当地域では、死者が発生すると、土坑に頭だけを地上に出して埋葬。頭にピドラ、ギルマを被せる。1年後に腐食が進むと、頸部から折り取り、頭部を鉢に入れ洞穴に安置

土器を用いた葬送行為

早稲田大学の民族誌調査で得た内容

- 前近代社会における「死」にまつわる葬送儀礼と土器製作が密接にかかわる

- 専門的土器製作者が死霊や先祖祭祀、魔術などの諸観念を背負いながら土器を製作している可能性

旧墓地に立つ石柱









死霊が帰る山：ブウェブウェソ山、ノルマンビー島



地理的関係


アムフレット諸島
ブウェブウェソ山
ノルマンビー島
バートルベイ
ケヘララ
トパ
ヤバム島
パヒレレ島
アロタウ
イーストケープ
マイルー島
ワガワガ
トゥベトゥベ島
0
60km

ブウェブウェソ山とは(信仰の山)

- 対岸のノルマンビー島にある山
- 死霊の帰る場所（ノルマンビー島、イーストケープ、ドブにも同じ伝承）
- 門前にヘビが待ち構えていて、不健全な霊は食べられてしまう

ブウェブウェソ山信仰

- 死者の霊魂が帰る場所、悪霊、先祖霊
- 立石をブウェブウェソ山に見立てる
- イーストケープの石材はどこからやって来たのか

立石の故地、ノルマンビー島の調査

- イーストケープの立石はノルマンビー島から運搬されたと推定
- 片岩はブウェブウェソ山の麓から流れ出る川から採取、海を船でイーストケープまで運搬
- イーストケープの各クランは、家の近く、墓地に立てる

ノルマンビー島に渡る



（ブアシヤイヤイ川）







ノルマンビー島の旧墓地にも立つ石





ノルマンビー島の墓地





墓場の立石



魔術と生姜





立石横に植えられた生姜

墓地と立石、魔術

立石に対して呪文、呪いをかける、魔術を行う
（他クランのメンバーに対して）
嫉妬や妬みが原因

ミルンベイ州では頻繁、メラネシアでも一般的
魔女をParoma（イーストケープ）
Werabana（ノルマンビー島）

なぜ魔術を使うのか

- 科学的知識がないので、人の病気や不運、死さえも、人為と考える（魔術、呪詛のせいだと考える）。
- ほかの誰かが自分に魔術をかけた結果だと考える。
- 死者にも土器は使われるので、土器製作者は特別に注意が必要

土器製作者の両義性

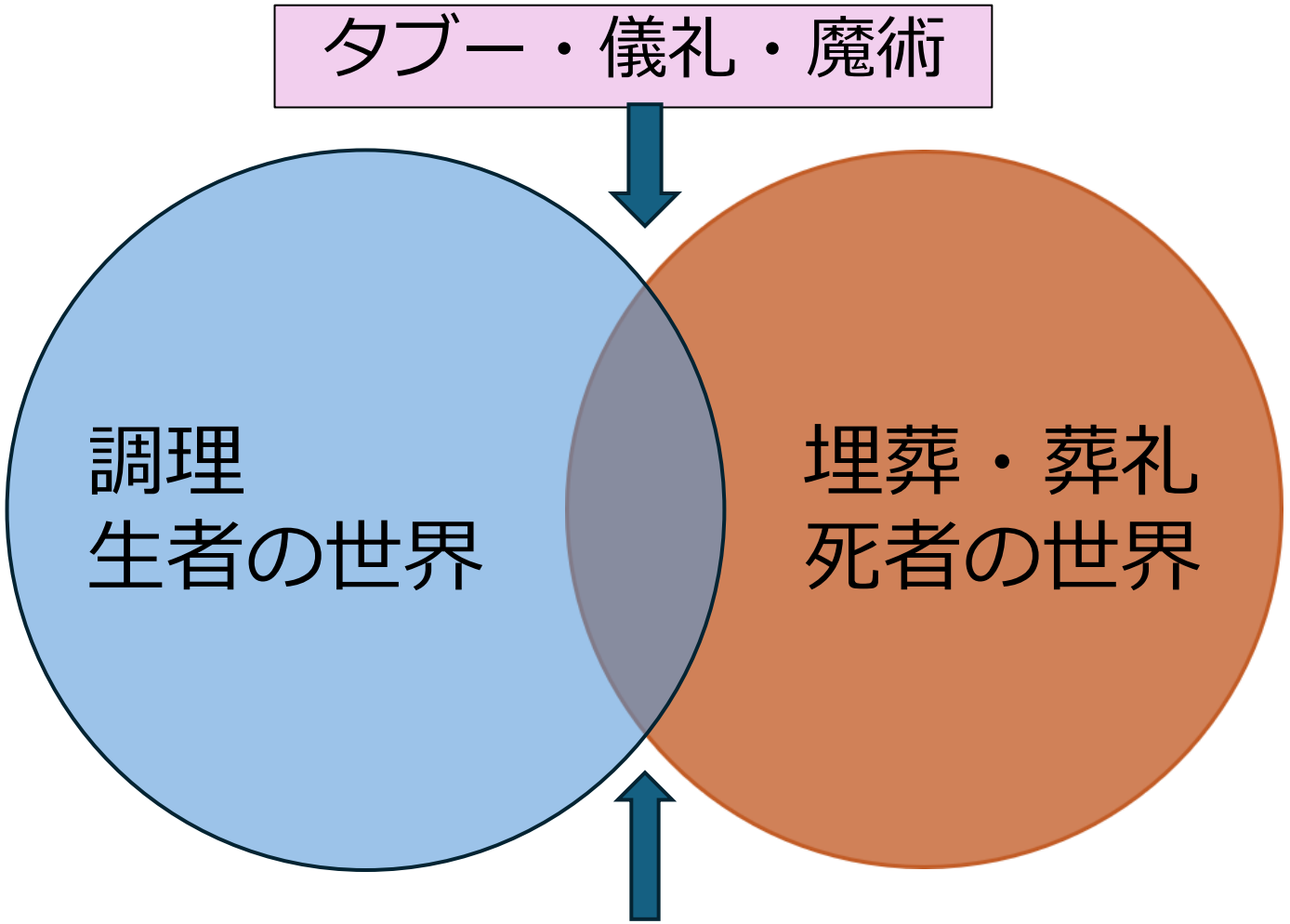
調理に関わる側面が「生者」を前提にする。葬制に関わる側面は、まさに「死者」を対象としたものである。

土器は「生者」を相手にすると同時に「死者」を相手にする最も両義的(ambivalent)な代物

両者が交錯する境界領域（リーメンゾーン）は特別に危険が宿り、それを避けるため儀礼や呪術が行われる。

その様な両義的なものにはタブーが課せられる。

土器製作者が置かれる危険な状況



土器製作者が魔性を帯びないとどうなるか

- 死霊、悪霊に対抗できない
- 死霊、悪霊に負けてしまう。
- 危険な状態に陥ってしまう

土器製作者の精神性

土器作りは危険な仕事であるからこそ、製作者には特別な資格・能力が付与される

レヴィ＝ストロースの『やきもちやきの土器作り』

土器製作者は、「魔女」と「ヨタカ」と「嫉妬」の構造的関係が描かれる。

パプアニューギニアの土器製作者もまさに「魔女」であると推定

土器作りは危険な仕事であるからこそ、製作者には特別な資格・能力が付与される。

土器製作者の力の源泉

- 魔女（Witchcraft）：墓場、人の死と関係
- Paloma （East Cape）
- Werabana (Normanby Island)
- 魔女は空を飛ぶ
- 夜活動する
- 人を食べる
- 呪詛、魔術
- 幼少から訓練

魔女の能力・性格

D女史はなぜ皆から一目置かれるのか

- ほかの人より強い霊力、呪力、魔力を持っていると信じられているから

- 部族社会の権威は、技術力や知識の背後にある霊的なもの、霊力に由来する

中期土器の過剰装飾の謎

- 葬送儀礼と関係
- 死者の世界と関係

- 土器製作者は生者と死者の両方のために土器を作る
- ⇒　両義的なリーメンゾーンに位置する
  多くのタブーに包まれる

他の人より強い霊力、呪力、魔力を持って対処
土器文様も強い霊力をもつ

引用参考文献

- 玉村豊男1980　『料理の四面体』　鎌倉書房
- 十日町市観光協会「国宝火焔型土器」

https://www.tokamachishikankou.jp/spot/kokuhoukaengatadoki/

- 九州国立博物館編2019『縄文王国やまなし』
- 山梨県立考古博物館編2015『縄文の美』第33回特別展カタログ
- 文化遺産オンライン：https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/497517
- 山梨県教育委員会 1978 『安道寺遺跡調査報告書』
- 山梨県埋蔵文化財センター 1998 『甲ツ原遺跡4』
- 山梨県市川三郷町「遺跡トピックスNo.0004宮の前遺跡」

https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/topics/1-100/0004.html

- 山梨県立考古博物館2026『第43回特別展　中部高地に芽生えた流水文土器とその周辺』

- 高橋龍三郎1981「亀ヶ岡式土器の研究」『北奥古代文化』12号
- 藤沼邦彦・関根達人2008「亀ヶ岡式土器」『総覧縄文土器』小林達雄編
- 新屋雅明2004「埼玉周辺の晩期中葉の様相」『第17回縄文セミナー　晩期中葉の再検討』
- 猪瀬美奈子2004「北関東における晩期中葉の様相」『第17回縄文セミナー　晩期中葉の再検討』
- 山内清男1930「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末」『考古学』第1巻3号
- ファン・ヘネップ（　綾部恒雄・綾部裕子訳）1995『通過儀礼』
- レヴィ＝ストロース（渡辺公三訳）1997『やきもちやきの土器作り』みすず書房）原著は1985年
- 小山逸彦2005「青森市玉清水(1)遺跡出土の縄文晩期の異形土器一」例『北奥の考古学ー葛西励先生還暦記念論文集』
- 高橋龍三郎編2023『パプアニューギニア民族誌と縄文社会』同成社

- 菊池徹夫・岡内三真・高橋龍二郎1997「青森県虚空蔵遺跡出土土器の共同研究」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第42韓・第4分冊
- Ｂ．マリノウスキー（高橋渉訳）2014『バロマートロブリアンド諸島の呪術と死霊信仰ー』原著は1916年刊行
- A.クローバー（ 堤 彪・山本 証堤訳）1983『様式と文明』創文社